

1 急増するマイクロブタ飼育者に対する家畜衛生対策向上のためのアプローチ

山城家畜保健衛生所

○龍村順子 一星暁美

【はじめに】近年のマイクロブタブームにより、管内でも飼育者が急増。豚熱ワクチン接種を契機に開始した、マイクロブタ飼育者に対する家畜衛生対策向上のための取組を報告。【飼養状況と課題】令和2年1月に管内初の飼養を確認して以来、現在まで10戸13頭（府内飼養頭数の約6割）が飼育。マイクロブタは主に愛玩用に飼育されており、取り扱いに配慮が必要かつ飼育者の家畜衛生意識が薄い等、養豚場とは異なる課題が判明。【飼養衛生管理指導】室内飼育のため飼養衛生管理基準は遵守されている一方、家畜疾病に関する情報が乏しく、リーフレットを用いて口蹄疫等の伝染病とその感染リスクについて丁寧に説明し、飼養衛生管理基準遵守の重要性の理解促進を図っている。【ワクチン接種】ワクチンプログラムに則り、原則、全戸巡回により実施。高齢者福祉施設等立入制限のある施設は家保で実施するなど、飼育者の実情に合わせて柔軟に対応。また、アナフィラキシーショックに備え、ワクチン接種時にはアドレナリン製剤を携行。【診療獣医師】飼育者から診療獣医師がいないとの相談があることから、獣医師会の協力を得て診療可能な診療施設のリストを作成。【まとめ】国内での豚熱発生以来、刻々と変化する豚の防疫対応に、その都度コミュニケーションをとることで飼育者の衛生意識も向上。今後も飼育者の増加が見込まれる中、引き続き丁寧に指導。